

# 令和3年労働災害発生状況

(1月1日から12月末日の間の報告件数) (1月速報値)

いわき労働基準監督署

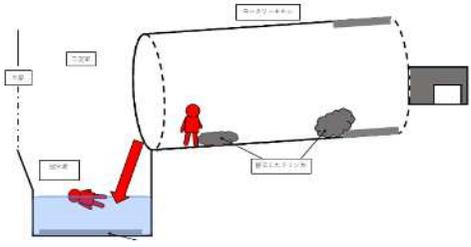
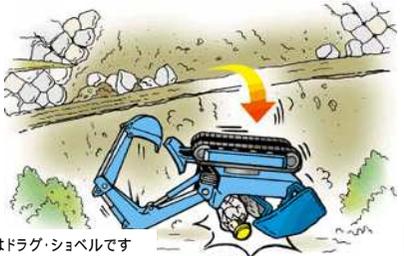
業種別	年別	令和3年		令和2年		対前年比	
		死亡	死傷者	死亡	死傷者	増減数	増減率
<b>全産業合計</b>		<b>4</b>	<b>383</b>	<b>4</b>	<b>347</b>	<b>36</b>	<b>10.4%</b>
01 製造業小計		0	96	1	99	-3	-3.0%
食料品製造業		0	12	0	23	-11	-47.8%
繊維工業		0	0	0	0	0	±0.0%
繊維製品製造業		0	1	0	1	0	0.0%
木材・木製品製造業		0	11	0	10	1	10.0%
家具・装備品製造業		0	1	0	1	0	0.0%
パルプ・紙・加工品製造業		0	1	0	0	1	+ %
印刷製本業		0	2	0	0	2	+ %
化学工業		0	25	0	15	10	66.7%
窯業・土石製品製造業		0	6	1	8	-2	-25.0%
鉄鋼業		0	2	0	2	0	0.0%
非鉄金属製造業		0	4	0	1	3	300.0%
金属製品製造業		0	13	0	11	2	18.2%
一般機械器具製造業		0	4	0	4	0	0.0%
電気機械器具製造業		0	6	0	3	3	100.0%
輸送用機械器具製造業		0	5	0	7	-2	-28.6%
電気・ガス・水道業		0	0	0	0	0	±0.0%
その他の製造業		0	3	0	13	-10	-76.9%
02 鉱業小計		0	0	0	1	-1	-100.0%
03 建設業小計		3	49	3	60	-11	-18.3%
土木工事業		0	14	1	13	1	7.7%
建築工事業		1	19	0	29	-10	-34.5%
その他の建設業		2	16	2	18	-2	-11.1%
04 運輸交通業小計		0	40	0	39	1	2.6%
鉄道・軌道・水運・航空業		0	1	0	0	1	+ %
道路旅客運送業		0	2	0	5	-3	-60.0%
道路貨物運送業		0	37	0	34	3	8.8%
上記以外の運輸交通業		0	0	0	0	0	±0.0%
05 貨物取扱業		0	6	0	3	3	100.0%
06 農林業		0	9	0	5	4	80.0%
07 畜産・水産業		0	0	0	0	0	±0.0%
上記以外の第三次産業小計		1	183	0	140	43	30.7%
08 商業		0	64	0	48	16	33.3%
08商業のうち、小売業		0	44	0	37	7	18.9%
09 金融広告業		0	2	0	1	1	100.0%
10 映画・演劇業		0	0	0	1	-1	-100.0%
11 通信業		0	7	0	9	-2	-22.2%
12 教育・研究業		0	3	0	3	0	0.0%
13 保健衛生業		0	46	0	36	10	27.8%
13保健衛生業のうち、社会福祉施設		0	28	0	32	-4	-12.5%
14 接客娯楽業		0	27	0	18	9	50.0%
14接客娯楽業のうち、飲食店		0	10	0	4	6	150.0%
15 清掃・と畜業		0	21	0	15	6	40.0%
16 官公署		0	0	0	0	0	±0.0%
17 その他の事業		1	13	0	9	4	44.4%

上記のうち下記の作業・工事、「事故の型」	令和3年		令和2年		対前年比	
	死亡	死傷者	死亡	死傷者	増減数	増減率
東日本大震災の復旧・復興工事	0	0	0	0	0	±0.0%
除染作業中	0	0	0	0	0	±0.0%
除染以外の復旧・復興工事	0	0	0	0	0	±0.0%
全産業のうち「転倒」災害	0	90	0	68	22	32.4%
全産業のうち「交通事故(道路)」災害	0	19	0	18	1	5.6%

本統計は、休業4日以上労働者死傷病報告による。

死亡4件の内1件がコロナ感染症によるもの。コロナ感染症による死傷病報告件数は令和3年38件、令和2年7件。

## 令和3年 死亡等労働災害発生状況

発生年月	業種	被災者	災害発生状況
令和3年 1月	建設業	40歳代 男性	<p>キルン内部に付着したクリンカの除去作業において、除去したクリンカのガラをロータリーキルン端部へ運搬する作業を行っていた被災者が、ロータリーキルンエンド側にある約3m下のプールにキルンエンドから墜落し、死亡した。</p>
			
令和3年 5月	製造業	30歳代 男性	<p>亜鉛粉末製造工場において、粉末製品の包装作業を開始するため、亜鉛末の分級プラントの起動を開始した。搬送装置のスイッチを順番に入れ、動力ファンのスイッチを入れたところ機械設備が粉じん爆発を起こし、複数の労働者が火傷など被災した。</p>
			
令和3年 7月	建設業	60歳代 男性	<p>被災者は事業場敷地内で、法面や道路脇の雑草の草刈り作業中、刈り取った草を集めて仮置き場へ運ぶため、トラクター・ショベルのバケットに雑草を載せて、約250メートル先の仮置き場まで運搬途中に路肩からトラクター・ショベルごと約15メートル下の谷底に転落し、つぶれた運転席に挟まれて死亡した。</p>
			

図の機械はドラグ・ショベルです

出典:職場の安全サイト

発生年月	業種	被災者	災害発生状況
令和3年 7月	その他の業種	60歳代 男性	<p>道路の復旧工事において、地山のり面の浮石除去後、作業員2名で測量を開始したところ、取り残した岩石が落下して転がり、被災者の骨盤部に当たり骨折した。当初は命に別状はなく入院して治療を継続していたが、けがに伴い病気を併発し、3か月後に死亡した。</p>
			
令和3年 10月	建設業	50歳代 男性	<p>建設工事現場の事務所において、コロナ陽性判定を受けた労働者と工事打合せを行い、感染したものと推定される。3日後に発熱、症状が悪化し入院していたものの1月後に死亡した。打合せは短時間で1回のみ。その後の作業もマスクを着用し、2m以上の距離をとって作業を行っていた。</p>
<p>発生状況図は省略</p>			
令和3年 12月	製造業	被災者 なし	<p>工場内において、製造工程で機械設備に空気を供給するため、コンプレッサーを起動したところ、間もなくして大きな破裂音が聞こえたため確認したところ、屋外に設置されていたエアータンク（縦型エアレシーバ）の上部の鏡板部分が破裂し吹き飛んでいた。周囲の建物等が広く破壊されていた。エアータンクは第2種圧力容器に該当するため、安全弁が設置されていたが作動しなかった。</p>
			

出典:職場の安全サイト